

## 第 11 回 「五輪報道について～国際報道の観点から～」

2008 年 7 月 8 日

毎日新聞運動部 野村隆宏

スポーツと国際友好・平和の祭典、オリンピックは、約 200 カ国・地域から選手が集まる世界最大規模のイベント。スポーツの枠を超え、政治、経済、民族などの国際的な諸問題が持ち込まれる。8 月 8 日に開幕する北京五輪は、国際的な視点に立つとさまざまな特徴や問題点を抱えている。五輪報道において、新聞はどんな役割を担い、期待されているのか。

### ① 北京五輪の特徴

- ・ 中国で初、アジアで 3 回目の開催
- ・ 社会主義体制下での五輪は、1980 年モスクワ大会以来
- ・ 人権問題、民族問題を抱えた国での開催
- ・ 世界最多の人口を抱える国での開催
- ・ 野球、ソフトボールは、“最後”の実施

### ② 注目点

- ・ 政治的プロパガンダとナショナリズム
- ・ テロの懸念と過剰警備
- ・ 市場開拓への期待
- ・ レーザー・レーサーが生み出す好記録
- ・ ドーピングのまん延止まるか
- ・ 五輪後の中国は

### ③ 五輪とメディア

五輪は、巨費を投じてライツホルダー（権利取得者）となったテレビメディアによって中継される。その情報量、速報性は、新聞メディアの及ぶところではない。

その中で、新聞には、よりジャーナリスティックな視点、姿勢が求められる。批評性を持ち、五輪の背景にあるもの、歴史、目立たないが、スポーツにとって重要な動きなどに光を当てる、などの作業も一層重要になる。

### ④ 新聞報道の作業

- ・ 競技を伝える（「日本県版」に終始しない、国際的な視野をもった報道姿勢）
- ・ 大会の全容を伝える。競技場のみならず、大会運営の仕方や、五輪を迎えた街・人々の様子にも注目をする
- ・ 背景を伝える
- ・ 大会を総括する

### ⑤ 五輪取材の体制

- ・ 毎日新聞の現地取材団は、総勢 27 人。ペン記者・デスク 17 人、メディア担当記者 1 人、写真記者・デスク 5 人、技術部 2 人、通訳・助手 2 人。